

けせんぬま

Vol.162

令和8年6月5日発行

普及センターだより

ひとつずつ 明日と未来のふるさとへ!

■特集

・今年度の普及活動の紹介

■トピック

・女性農業者による直売所の紹介

■新規就農者紹介

■情報提供

・シートベルト着用義務化
・農作業における熱中症対策
・土壌分析

■令和8年度職員紹介



今年度の普及活動の紹介

プロジェクト課題

ぶどう栽培者の技術力向上による生産拡大

【対象】南三陸大粒ぶどう協議会（会員14名）

令和5年11月に設立された「南三陸大粒ぶどう協議会」は南三陸町産ぶどうの認知度向上や面積拡大を図るため、ぶどうの高品質化・ブランド化に向けた取組を行い、令和6年8月に新ブランド「しおかぜ葡萄」が誕生しました。普及センターでは、生食用ぶどうの更なる生産拡大による産地形成に向け、協議会の取組を支援します。

①技術力向上支援

ぶどうの高品質化・付加価値向上に向け、栽培研修会及び目揃え会の開催や巡回指導による支援を行う他、地域の農産物直売所と連携した販売会等を支援します。



②環境負荷低減及び軽労化支援

せん定枝のバイオ炭や貝殻の施用による土づくり等の環境にやさしい栽培技術及びジベレリン処理、摘粒、せん定等の作業軽労化の技術の検証等を支援します。



重点活動3

中山間地域における持続的な営農構築支援

【対象】気仙沼市表山田・三段田地区 主要農家

県では、気仙沼市本吉町津谷の「表山田・三段田地区」を地域計画実現促進地区として、気仙沼市の地域計画における目標実現に向けた取り組みを支援しています。また、当地区は今年度、農業競争力強化農地整備事業の実施地区に採択されており、今後、地区の促進計画に基づき、担い手への集積・集約や高収益作物の作付け拡大等を進めます。

当地区では、農地整備事業の完了後に、汎用化水田における高収益作物の栽培により安定した収益を確保できるよう、令和5年度から地区内の水田でえだまめの試験栽培を始めています。

今年度、普及センターは、品種比較や資材の効果検証等の実証試験により、今後のえだまめの安定生産及び作付けの拡大につなげるため、技術支援を中心に取り組みます。



重点活動4

環境対応型稲作の推進

【対象】環境負荷低減に取り組む稲作生産者、高温耐性品種生産者、乾田直播実践生産者



管内では近年、環境負荷低減に向けた取り組みに挑戦する稲作生産者が見られます。そこで、環境負荷低減に取り組む稲作生産者を対象に、栽培支援を行い、地域におけるこれらの取組の定着を図ります。

また、近年の猛暑を受けて高温耐性品種の導入を検討する生産者が増えていることから、栽培支援を行うとともに、栽培特性を把握し、当地域での適応性を検討します。

さらに、高温対策及び省力化の観点から、乾田直播栽培の推進にも取り組みます。

重点活動5

気仙沼いちごの生産振興

【対象】 JA新みやぎ階上いちご部会、有限会社水山養殖場



地域ブランドである「気仙沼いちご」の品種は主に「とちおとめ」と「もういっこ」で構成されています。しかし、令和9年度で、公益社団法人みやぎ農業振興公社における「とちおとめ」の基核苗生産が終了するため、「とちおとめ」生産者を対象として、代替品種の導入検討や親株確保に向けた取り組みを支援します。

また、管内は夏季が比較的冷涼な気候でしたが、近年の気温上昇の影響により、採苗時の活着不良や花芽分化の遅れ等が問題になっています。このため、受け苗育苗の導入や高温対策技術等、気候の変動に対応した栽培管理技術の導入等を支援します。

これらの取り組みにより「気仙沼いちご」の安定生産、反収向上を目指します。

重点活動6

枝もの用クロマツの生産技術向上支援

【対象】 株式会社南三陸PinePro、クロマツ生産者

枝もの用クロマツの生産振興を図るため、管内の生産法人・生産者を対象に、生産技術向上に向け支援します。

特に課題となっているのは良質な苗の確保です。購入苗はコストがかかり、品質にもばらつきがあるため、自家苗生産の取り組みを始めています。しかし、現状としては、発芽不良や鳥害等により、必要な数量の苗の確保ができず、不足分については購入苗に頼らざるを得ないところがあります。また、クロマツは観賞用の作物であり、商品化率向上に向け、市場・実需者が求める品質（葉の密度や茎の太さ等）を確保できる生産技術が求められます。

普及センターでは、これらの課題解決に向け、引き続き技術支援や情報提供に取り組めます。



トピック

女性農業者による直売所 パーキング花の道直売所

- 所在地 気仙沼市松崎五駄鱈「花の道・けせんぬま」パーキング内
- 連絡先 0226-23-1832
- 営業時間 毎週日曜日 9時00分～12時00分
※定休日 1月～3月、
市内イベント等開催時
- 駐車スペース 普通車10台
- 主な取扱品目 野菜、菓子、花き、惣菜

ここが自慢!

国道45号沿線にある「花の道・けせんぬま」パーキング内で、毎週日曜日に営業しています。

おはぎ、大福、ぼたもち、ドーナツ、がんづき、赤飯、煮物、漬物など、手作りの加工品を中心に販売しています。もちろん、朝採りの野菜や旬な果物もあります。販売スペースの隣には、憩いのテントをご用意し、お茶っこのサービスもあります。看板娘のおかあちゃんたちが明るく迎えてくれます。皆様のお越しをお待ちしています。

※お出かけの際は、営業時間等変更になっている場合もありますので、事前に店舗へご確認ください。

新規就農者紹介



鈴木裕之さん

管内の新規就農者を紹介します

鈴木裕之さんは令和6年に南三陸町志津川地区で新規就農し、せりの栽培に取り組んでいます。鈴木さんはもともと林業関係の企業で勤務していましたが、令和4年からせり栽培を開始し、令和6年から新規就農しました。沢水を利用し、一般的なせり（根せり）だけでなく、葉せりの栽培にも取り組んでいます。堆肥、有機・化成肥料を組み合わせた土づくりに取り組み、収量・品質の向上を目指しています。

鈴木さんから一言

今後は、直売所やスーパーでの販売に加え、新たな販路の開拓にも挑戦していきたいと考えています。より多くの方に、この土地の恵みが詰まった新鮮で美味しいせりを届けていきたいです。

情報① シートベルト着用義務化について

Q 義務化はいつから？

A 令和9年1月1日からです。

Q どのトラクタが対象？

A 令和9年1月1日以降に製造された座席を有するトラクタは、大型特殊自動車・小型特殊自動車に限らず対象車となります。

Q 違反した場合は？

A シートベルトの着用義務違反として、点数1点が付されます。



情報② 農作業における熱中症対策について

- 近年、農作業中の熱中症等による死亡者が増加しています。
- また、熱中症以外にも高所からの転落や草刈り作業中等の事故が増加しています。夏場の高温による疲れなどが、事故の発生に影響しています。

熱中症対策

休憩、水分・塩分補給と対策アイテム（ファン付きウェア、冷却ベストなど）の着用。

休憩時には、水分・塩分補給しましょう。塩分・糖分を含むスポーツドリンクが最適です。

情報③ 土壌分析で作物にとって最適な土壌バランスを目指しましょう！

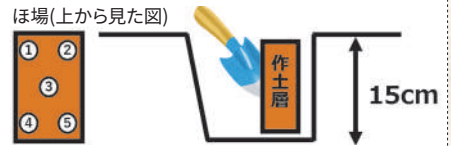
土壌分析を行うと、ほ場に残っている肥料成分が分かり、次作で適切な施肥が可能になります。

普及センターでは随時分析を受け付けていますので、ぜひご利用ください。

※事前に電話連絡をいただくとスムーズです。

【土の採り方】

- ①ほ場の全体が均等になるよう、5か所から深さ15cmの作土層を採取します。正確に分析するため、肥料成分が多い地表2～3cmは取り除いてください。
- ②採取した土を一つにまとめ、150g（お茶碗1杯分）程度にします。
- ③まとめた土を袋に入れ、採取場所が分かるよう袋に「ほ場番号」を記載し、気仙沼農業改良普及センターへご提出ください。



令和8年度 気仙沼地方振興事務所農業・農村振興部 気仙沼農業改良普及センター 職員紹介

普及センター

総括次長
降幡 泰永
【野菜】

新 所長
加藤 秀逸
【作物】

技術副参事兼総括次長
加賀屋季洋

よろしく
お願いします

農業普及班

技術次長(班長) 新 技術主幹
村主 栄一 渡邊 和彦
【花き】 【野菜】

新 技師 技師
進藤 裕子 大野 萌依
【果樹】 【作物】

技術主査 新 技師
木村 智志 佐藤 脩
【野菜】 【野菜】

農業振興班

新 技術主任主査 技術主幹(班長)
佐藤 直紀 安藤慎一郎

技術主査 主事
鈴木 香深 佐藤 颯太

農村整備振興班

技術主査 技術次長(班長)
布施 祐司 三浦 洋

技師 技師
八木沼瑞季 品川 嘉伸

農業分野の対応窓口を一本化することで一体的な支援・対応を可能とし、農地集約・集積や地域計画の実現をより推進するため、「農業振興部」「農業農村整備部」を統合し、令和8年度から「農業・農村振興部」が新設されました。

宮城県気仙沼農業改良普及センター

〒988-0181 宮城県気仙沼市赤岩杉ノ沢47-6 TEL: 0226-25-8068
FAX: 0226-22-1606 MAIL: ksnks@pref.miyagi.lg.jp

